

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成22年4月15日 (2010.4.15)

【公表番号】特表2009-528065(P2009-528065A)

【公表日】平成21年8月6日 (2009.8.6)

【年通号数】公開・登録公報2009-031

【出願番号】特願2008-557419(P2008-557419)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 N 1/21 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/7105 (2006.01)

A 6 1 K 31/711 (2006.01)

A 6 1 K 31/713 (2006.01)

A 6 1 K 35/74 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/12 (2006.01)

A 6 1 P 31/04 (2006.01)

A 6 1 P 33/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/22 (2006.01)

A 6 1 P 33/10 (2006.01)

A 6 1 P 33/12 (2006.01)

A 6 1 P 31/18 (2006.01)

A 6 1 P 33/02 (2006.01)

A 6 1 P 33/06 (2006.01)

A 6 1 P 31/10 (2006.01)

A 6 1 P 31/08 (2006.01)

A 6 1 K 47/48 (2006.01)

A 6 1 K 47/42 (2006.01)

A 6 1 K 39/00 (2006.01)

【 F I 】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 1 2 N 1/21

A 6 1 K 48/00

A 6 1 K 31/7105

A 6 1 K 31/711

A 6 1 K 31/713

A 6 1 K 35/74

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 31/00

A 6 1 P 31/12

A 6 1 P 31/04

A 6 1 P 33/00

A 6 1 P 31/22

A 6 1 P 33/10

A 6 1 P 33/12

A 6 1 P 31/18

A 6 1 P 33/02

A 6 1 P 33/06  
A 6 1 P 31/10  
A 6 1 P 31/08  
A 6 1 P 33/02 1 7 1  
A 6 1 K 47/48  
A 6 1 K 47/42  
A 6 1 K 39/00 H

【手続補正書】

【提出日】平成22年2月23日(2010.2.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(a) プロモーター；および

(b) プロモーターと動作可能なように連結されている核酸

を含むポリヌクレオチドであって、ここで核酸は、

(i) 配列番号 38 の少なくとも最初の 59 アミノ酸残基を含み、配列番号 38 の最初の 380 アミノ酸より短く、ここで、配列番号 38 の最初のアミノ酸残基はバリンであるか、または配列番号 38 の最初のアミノ酸残基はメチオニンで置換されている改変型 A c t A；および

(i i) 異種抗原

を含む融合蛋白質をコードする、  
ことを特徴とするポリヌクレオチド。

【請求項 2】

改変型 A c t A は、配列番号 38 のアミノ酸 1 - 100 を含み、ここで、配列番号 38 の最初のアミノ酸残基はバリンであるか、または配列番号 38 の最初のアミノ酸残基はメチオニンで置換されている、請求項 1 に記載のポリヌクレオチド。

【請求項 3】

改変型 A c t A は、コフィリンホモロジー領域 (K K R R) (配列番号 23)、およびリン脂質コア結合ドメイン (K V F K K I K D A G K W V R D K I) (配列番号 20) からなる群より選択される少なくとも 1 つのドメインの、ドメイン中の不活性化変異、ドメインの欠失、またはドメインの前でのトランケーションを含む、請求項 1 に記載のポリヌクレオチド。

【請求項 4】

改変型 A c t A は、A c t A の 4 つすべてのプロリンリッチドメイン (F P P P P, F P P P P, F P P P P, F P P I P) (配列番号 21, 配列番号 22) を含む、請求項 3 に記載のポリヌクレオチド。

【請求項 5】

プロモーターは a c t A プロモーターである、請求項 1 - 4 のいずれかに記載のポリヌクレオチド。

【請求項 6】

異種抗原は、癌細胞、腫瘍、または感染性因子からのものであるかまたはそれに由来する、請求項 1 - 5 のいずれかに記載のポリヌクレオチド。

【請求項 7】

異種抗原はヒトメソセリンである、請求項 6 に記載のポリヌクレオチド。

【請求項 8】

異種抗原は、そのシグナルペプチド領域、そのGPIアンカー領域、またはそのシグナルペプチドとGPIアンカー領域との両方を欠失したヒトメソセリンの誘導体である、請求項6に記載のポリヌクレオチド。

【請求項9】

異種抗原はヒトPSCAである、請求項6に記載のポリヌクレオチド。

【請求項10】

異種抗原は、

- (a) そのシグナルペプチド領域の一部または全部；
- (b) そのGPIアンカー領域；または
- (c) そのGPIアンカー領域およびそのシグナルペプチド領域の一部または全部、を欠失しているヒトPSCAの誘導体である、請求項6に記載のポリヌクレオチド。

【請求項11】

請求項1-10のいずれかに記載のポリヌクレオチドを含むプラスミド。

【請求項12】

請求項1-10のいずれかに記載のポリヌクレオチドを含む*Listeria*細菌。

【請求項13】

*Listeria monocytogene*である、請求項12に記載の*Listeria*細菌。

【請求項14】

細胞から細胞への拡散、および/または非食細胞中への侵入について減弱化されている、請求項13に記載の*Listeria*細菌。

【請求項15】

*actA*欠失変異体または*actA*挿入変異体である、請求項14に記載の*Listeria*細菌。

【請求項16】

*Listeria*細菌はそのゲノム中に該ポリヌクレオチドを含む、請求項12-15のいずれかに記載の*Listeria*細菌。

【請求項17】

該ポリヌクレオチドはゲノム中の病原性遺伝子中にインテグレートされており、ここで、ポリヌクレオチドのインテグレーションは：

- (a) 病原性遺伝子の発現を混乱させるか；または
  - (b) 病原性遺伝子のコーディング配列を混乱させる、
- ことを特徴とする、請求項16に記載の*Listeria*細菌。

【請求項18】

病原性遺伝子は*prfA*依存性遺伝子*actA*または*inlB*である、請求項17に記載の*Listeria*細菌。

【請求項19】

請求項12-18のいずれかに記載の*Listeria*細菌を含むワクチン。